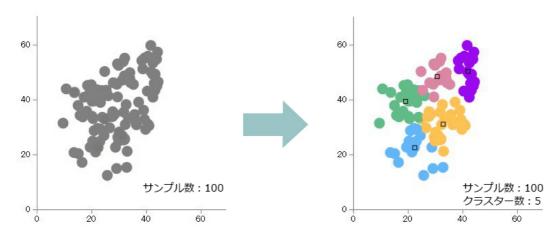
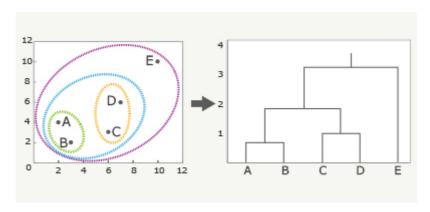
# 01. クラスター解析とは

クラスター解析とは、**データを統計的にグループ化(クラスタリング)する方法**のこと。

プロットのまとまりでグループを視覚化する非階層クラスター解析。



樹状にグループを視覚化する階層クラスター解析がある。



Rでクラスター解析を行うために、以下の手順が必要。

- 1. データを読み込む
- 2. データを距離行列に変換
- 3. 距離行列をクラスタリング
- 4. 解析結果を視覚化

## 02-01. 関数の探し方&引数の調べ方

#### ◇ 探し方

Rでやってみたいことがあったら、英語を使って『OO in R』とググる。

(例)表の読み込みをしたいから、『read table in r』とググる。

#### ◇引数の調べ方

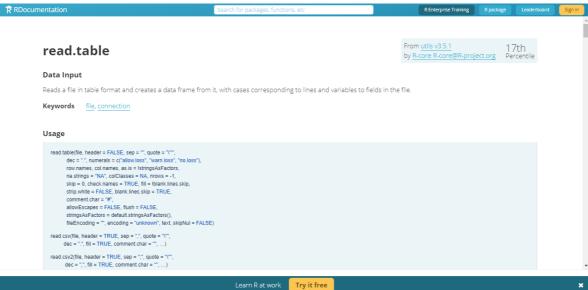
英語圏エンジニアのブログ等で自分のやりたいことをしているfunctionを探す。

その後、function の具体的な引数を https://www.rdocumentation.org で調べる。

(例) read.table で表の読み込みができることを見つけ、read.table とググる。

関数リンク: <a href="https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/read.table">https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/read.table</a> 以下の画面では、read.table の引数の一覧が示されている。

read.table の後ろを丸括弧で囲い、その中に file 、 header 、 sep などの引数を書き込む必要がある。



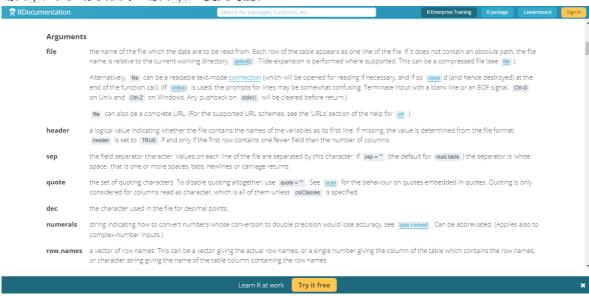
以下の画面では、Arguments (引数)の説明がされている。

file:読み込むデータ名を入力。

header: TRUE の場合、ヘッダーが有るものとして読み込む。 FALSE は無い場合。

sep: ""の場合、スペース区切り形式として読み込む。ここに書かれてはいないが、カンマ形式の

場合,、タブ切り形式の場合\t に変更可能。



### 

(例) ape パッケージ

install.packages("ape")

パッケージをインストール可能。 インストール時に、どのミラーサイトでインストールするか聞かれるので、『Japan(Tokyo)』を選ぶ。

リンク: <a href="https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/install.packages">https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/install.packages</a>

#### ◇ (2) library():パッケージを展開

(例) ape パッケージ

library(ape)

パッケージを展開(アクティブ化)する関数。 パッケージはRを閉じるたびに非アクティブ化されてしまうので、**起動するたびに** library() **が必要。** 

リンク: <a href="https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/library">https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/library</a>

#### ◇ (3) ディレクトリの指定

読み込みたいファイルは指定したディレクトリ(=作業フォルダ)内にないといけないので、まず指定。

Rの上夕ブにある『ファイル ⇒ ディレクトリの変更』から、ディレクトリを指定可能。

#### ♦ (4) object <- "OO"</p>

(例) test.txt を table と名づけたオブジェクトに格納。

table <- "test.txt"

Rで中核となる命令。

データなどを文字に割り当てる。

割り当てを『格納』と言う。(受験数学の『〇〇を文字Xと置く』のイメージ) データをオブジェクトに格納してから扱っていく。

#### 

remove(list=ls())

今までに作成されたオブジェクトを全て削除可能。

試行錯誤していると間違った格納をしていることがあるので、時々リセットしておく。

リンク: https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/remove

#### ◇ (6) summary(): データの中身を確認

(例) オブジェクトである table の中身を確認。

summary(table)

データの中身を見ることが可能。

リンク: <a href="https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/summary">https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/summary</a>

#### ◇ (7) read.table():表データの読み込み

(例) test.txt をタブ有り・スペース区切りとして読み込み。

table <- read.table("test.txt",
header=TRUE,
sep="")</pre>

拡張子も忘れずに、ファイル名を""で囲って指定。(オブジェクトを引数として選ぶ場合""は不要)

header:ヘッダーの有無を指定。

sep:表データ形式を指定。(/t:タブ切、,:カンマ区切り)

処理の出力先として、 table に格納。

リンク: <a href="https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/read.table">https://www.rdocumentation.org/packages/utils/versions/3.5.1/topics/read.table</a>

※ table として、次のようなペアワイズ比較の有意差の対応表を扱うこともできる。 (ペアワイズ:総当たり的に比較された状態)

	A	В	C	D	E
A					
В	0.003				
C	0.001	0.0015			
D	0.002	0.007	0.08		
F	0.0001	0.03	0.034	0.02	

#### ◇ (8) class():データフレームを確認

(例) table のデータフレームを確認。

class(table)

データの class を確認。

functionによって読み込みのできるデータフレームが異なるので、事前に確認しておく。例として、「table の class を確認。

リンク: https://www.rdocumentation.org/packages/base/versions/3.5.1/topics/class

#### ◇ (9) data.matrix():データフレームを距離行列に変換

(例) table を距離行列に変換。

lower.matrix <- data.matrix(table)</pre>

class(lower.matrix)

クラスター解析を行う function は、データフレームが距離行列でないと認識できないため、data.matrixで事前に変換しておく必要がある。

変換後、ためしに、class でデータフレームを確認すると、matrix と返されるはず。 有意差表は下半分にしかデータがないので、lower.matrix として格納。